

今日からできる訪問診療

高齢者対応や請求要点を解説

組織部

歯科の治療だけでなく、歯科衛生士をはじめ、看護師や他職種と連携し、チームで患者の健康を見守ることが大切だ。2月16日に組織部がM&Dホールで開いた「今日からできる訪問診療講習会」で、講師の吉田裕志氏は63人の参加者呼びかけた。

講習会は昨年保団連が発行した『今日からできる訪問診療の手引き』(2012年版)をテキストに訪問診療の基本的な流れや認知症高齢者への対応、保険請求のポイントなどを解説した。

認知症高齢者への対応としては、前触れなく処置をしない、何をやるにも必ずしも声をかけず、不安感を与えないことが重要である。昨年、訪問診療料の引き上げや補助加算が算定できるようになった。

訪問診療の基本から認知症高齢者への対応まで学んだ講習会=2月16日、M&Dホール



訪問診療の基本から認知症高齢者への対応まで学んだ講習会=2月16日、M&Dホール

た医療にかかわってほしい、と注意を促した。テキスト販売中
協会では、歯科訪問診療講習会で使用したテキスト『今日からできる訪問診療の手引き』(2012年版)を会員限定で販売している。1冊1

部分義歯は機能印象必須

堺・高石・和泉地区

部分床義歯の成功は既に始まっている。戦場ならぬ診療室で緻密に理論武装された戦い(前処置、概形印象、機能印象)をされる先生の動画(そこには一切の手抜きも妥協もない(良い意味で)ここまでやるかである)。先生の信条「印象は採るのではなく採りにいく」が全身に伝わっている。

2月16日、堺市中区開業の山上博史氏を講師に、同市内で開催した講演会

わが街 わが地区



500円(送料込み)。詳細は下記広告を確認の上、希望者は事務局まで。

の終盤である。テーマは「今さら聞けないパーシヤルデンチャーの基礎PART3」印象採得の実際「臨床編」。酷暑のなか28人が参集した会場には熱気が満ちた。

困った患者への対応法

大阪市東部・北部地区

大阪市東部・北部地区は、「患者トラブルを解決する技術」を2月16日、保険医会館で開き、13人が困った患者(ハードクレイマー)への対応法を学んだ。講師は尾内康彦氏(医科協会事務局次長)。

「ハードクレイマー」の代表例として、①偏った医療情報・知識を振りかざす②過保護でわがままが多いと強調した。

また家族③支払いを拒否④結果からしか判断しない⑤に分類した。

バキューム実習

臨床・学術部



練習重ね操作に自信

臨床・学術部は、「バキューム実習」を2月2日、港区のとみもと歯科で開いた。初めての方から5年の経験者まで、スタッフ13人がキャリアに応じた実習に取り組んだ。

日常は補助側の視点しか見えないことが多いが、実習では術者役・患者役にもなるので、それぞれの視点から「こういう気持ちなんだ」と気づいたり、感じたりすることが多い。疑問に

2・14国会要請

【面談】衆院(維新)西根由佳「議員対応」衆院(生活)村上史好「秘書対応」衆院(自民)たかしきなおみ、中山泰秀、大塚高司、左藤章、原田憲治、竹本直一(維新)井上英孝、浦野靖人、松波健太、遠藤敬、馬場伸幸、足立康史、木下智彦、谷畑孝、西村眞悟、三宅博村、上政俊、西野弘一、丸山穂高、伊東信久、八木圭一、辻元清美、(公明)北側一雄、佐藤茂樹、伊佐進一、國重徹、浮島智子、樋口尚也、(共産)宮本岳志、(自民)北川イッセイ、谷川秀善、(民主)梅村聡、尾立源幸、藤原正司、(公明)石川博崇、白浜一良、山本香苗、(共産)山下若生 (敬称略・順不同)

医療被曝のリスク

市民と科学者の内部被曝問題
研究会会員・歯科医師 鈴木成和

一般の歯科診療の場面では、歯科X線による健康影響は、ほぼ無いに等しいレベルとの説明が為されているのではないかと。また、一般医科の場合に於いても、X線撮影に伴う医療被曝の影響については、具体的な説明が為されることがほとんどない様である。

検査で得られる利益分の方が上回っているといった、ドグマ的な教育が行われ、例えば低線量の被曝であっても被曝した分だけ影響が有り、一定線量以下であれば害がない訳ではない、例え一回一回が低線量の被曝であっても

CTは許容線量の10倍超

限度値なし

職業的に放射線を扱う人の場合は、「この1年でも50mSvシーベルトを超えず、5年間で1000mSvを超えない」という限度値が定められている。しかし、

で決められた検診や、病気が怪我で病院にかかった折などを含め、トータルでどれだけ被曝しているのか全く把握出来ない状況となっている。

一回のCT検査は、10〜20mSvシーベルトに相当するとされている。このお詫いで訂正します。

訂正 連載1回目(1月25日付)で筆者の肩書きを「名古屋市開業」と記載しましたが、「名古屋市在住」の誤りでした。

訂正 連載1回目(1月25日付)で筆者の肩書きを「名古屋市開業」と記載しましたが、「名古屋市在住」の誤りでした。

訂正 連載1回目(1月25日付)で筆者の肩書きを「名古屋市開業」と記載しましたが、「名古屋市在住」の誤りでした。